



とこなめ陶の森 陶芸研究所

修了制作展 Graduation Exhibition

ERI AZUMA
SAYAKA KATO
SHIORI MIYOSHI

THE 31TH

TOKONAME

日時 2015年3月7日(土)~15日(日)
9:00a.m.~5:00p.m. 月曜日休館

会場 とこなめ陶の森 陶芸研究所
資料館

■ ごあいさつ ■

このたび、とこなめ陶の森 陶芸研究所 修了制作展にお越しいただきありがとうございます。
私たち女性3人の研修生は、生活に寄り添うやきものに魅力を感じ"常滑"に集まりました。

やきものの原点に近い穴窯による焼成も学び、

伝統や文化を引き継ぎ、素材の特性の理解に努め、自己を表現できるよう制作に励んでまいりました。

"やきもの"のある生活について語り合い

互いに支え合い取り組んだ制作物 私達の"今"の成果をご覧ください。

研修生 東絵理 加藤明夏 三好史織

特別講演 2015年3月8日(日)
1:30p.m.~3:00p.m. 小西洋平氏『急須こそわがふるさと』 10:00a.m.~1:00p.m. 村越風月氏・鯉江廣氏による煎茶のおもてなし

お問い合わせ：とこなめ陶の森 陶芸研究所 〒479-0822 愛知県常滑市奥条7丁目22番地
TEL/FAX 0569-35-3970  <https://www.facebook.com/tokoname.touken/>

とこなめ陶の森 陶芸研究所 第31期生修了制作展 作品リスト

<とこなめ陶の森 陶芸研究所 展示室>

番号	作品名	名前
1	盤 1. 2. 3	東 絵理
2	おしり	加藤 明夏
3	No tittle	三好 史織
4	珍あなご	加藤 明夏
5	おしりとしりでお知り合い(イス)	加藤 明夏
6	窯変大皿	加藤 明夏
7	bowl I	東 絵理
8	bowl II	東 絵理
9	アルカタチ	三好 史織
10	四季<春>	三好 史織
11	四季<夏>	三好 史織
12	四季<秋>	三好 史織
13	四季<冬>	三好 史織

<とこなめ陶の森 陶芸研究所 1階茶室>

番号	作品名	名前
14	小鉢	加藤 明夏
15	めし碗	加藤 明夏
16	カイラギ茶碗	三好 史織
17	灰釉茶碗	三好 史織
18	搔落し茶碗	三好 史織
19	白化粧茶碗	三好 史織
20	小箱	東 絵理
21	皿	東 絵理
22	水指	三好 史織
23	茶碗	三好 史織
24	箱もの	東 絵理
25	建水	加藤 明夏
26	菓子器	東 絵理
27	花入	三好 史織
28	碗	東 絵理
29	板皿	東 絵理

<とこなめ陶の森 資料館 特別展示室>

番号	作品名	名前
1	急須	東 絵理
2	急須	三好 史織
3	茶の箱 ①、②	三好 史織
4	三彩茶碗	三好 史織
5	茶入れ / 振出し	三好 史織
6	酒器<赤絵徳利・楽焼ぐい呑み>	加藤 明夏
7	酒器<穴窯>	加藤 明夏
8	酒器<七輪焼>	加藤 明夏
9	碗	東 絵理
10	カタクチ	東 絵理
11	リズムカップ	東 絵理
12	bowl	東 絵理
13	香合	加藤 明夏
14	原料資料 ~土からの学び~	加藤 明夏
15	スツール~輪になって語り合おう みんなの宮殿~	加藤 明夏
16	No tittle	東 絵理
17	鉄化粧ティーセット	加藤 明夏
18	白化粧ポット、灰釉カップティーセット	加藤 明夏

■ 研修生プロフィール ■

東 絵理
Azuma Eri



1990年 茨城県生まれ
2009年 愛知県立常滑高校 クリエイティブデザイン科 卒業
2013年 名古屋芸術大学 美術学部 洋画科 卒業

日々、日常のリズム、キチキチ
ポカポカ、ユラユラ、ハラハラ
形が浮き上がる。
手あとになって
粒子が固まる。
色を作品におく、女の子がチークをほほに
さすのと同じ感じ、うきうきする。

加藤 明夏
Kato Sayaka



1988年 愛知県生まれ
2011年 名古屋学芸大学メディア造形学部 デザイン学科卒業

飲む事が好き！人と集まりワイワイする事が好き！という思いがあり、
酒器やティーポット、そして輪になって楽しめるようなスツールを制作しました。
私が研究所で取り組んできた事は、炭火焼きの灰を使って作った釉薬・
掘った土を原料とした資料の作成です。
わたしと、私と繋がる人がいてはじめて出来るもの。
すべて繋がってわになるように... 今後も繋がりを大切にして、
制作を続けたいと思います。

三好 史織
Miyoshi Shiori



1983年 兵庫県生まれ
2006年 大阪芸術大学 芸術学部工芸学科 卒業
2008年 大阪芸術大学大学院 芸術研究科 博士前期 修了
2008年 兵庫陶芸美術館 入社 陶芸指導事務を嘱託
2013年 兵庫陶芸美術館 退職

修了展では、主に茶道具をテーマとして制作をした。
私自身、茶道に触れる機会は数える程しか無いけれども、体験していくうちに興味を持つようになった。
その中の1つ、茶箱に興味を持った。茶室の中だけでなく、屋外でも楽しむ事ができる。
景色の良い所でお茶を飲めたら素敵だと思った。茶道は近寄りがたいイメージがあるけれど、
屋外など何処でも楽しめたらお茶との距離が近くなる気がします。
また、茶道には道具がいろいろあり、それらを取り合わせて1つの空間にする。
その空間の中に、季節を感じる事もできる。
まだまだ勉強中で分からない事がたくさんありますが、楽しんでお茶を飲み、季節を感じられる
一時を作れたら良いと思っています。